



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬるとすれば主のために死ぬのです」

聖書(ローマ書14章8節)

牧師 河合裕志

パウロはよくもこのように言い切ったもの、主(イエス・キリスト)のために生き、死ぬんだ、と。ここに彼の生きる目的、意味といったものが示されている。

私達はなかなかそこまでは言えない。私は私のため、私の思いの実現のため、私の肉体の維持のために生きている。私は私の愛する者のために、家族のために生きている。私は世のため、人のため、なんらかの貢献のために生きている…。どれも素晴らしいこと、私もそう願っている。

そうした中、パウロはもう一つの生き方を示して来る。それはイエスのための生ということ。それってどういうこと。それはイエスの死と復活を宣べ伝えるということ。このためなら私の命は惜しくはない、といったこと。そのくらい彼はイエスに深い深い恩を感じていた。恩というには弱いかもしれない。とに角イエスはパウロのために命を捨ててくれた人だったから。

命を捨てる、それは穏やかな話ではない。それは自殺の話か。今日、毎日50人も60人も自死をされている。誠に痛ましいこと。折角のたった一つしかない自分の命を自分で無きものにしてしまうのだから。

イエスの場合の命の捨て方、それは人の罪を代って荷い刑に服するというもの。そのようにして人に罪の赦しがもたらされることに。赦罪によって人は神との交わりが与えられ、永遠の命を確信して歩む者とされた。

パウロはこのことをはっきりと知らされて、これからは私のために身を捨てて下さったイエスのために生きるんだ、その死は全人類のためでもあるんだ、このことを知らせたい、そのために迫害を受け死ぬことがあってもよい、とまで思うようになった。

要はイエスの死をそのように受けとめられるかどうかということ。そんなこととても信じられない、という人と、私は信じる、という人と二つに別れる。植村正久(1858~1925年)などは後者の人。こんなことを言っている。

「主なるイエスよ、わたくしはあなたのために生き、あなたのために苦闘し、あなたのために死にます、生きるにしろ、死ぬにしろ、わたくしはあなたのものです」。こうして植村は東京神学社(東京神学大学の前身)を建て、富士見町教会(JR 飯田橋駅近く)を建てた。(娘の環牧師は戦後、昭和天皇に聖書の進講をした)。私達もイエスの死を覚えられたら。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時~7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時